

厚生労働科学研究費補助金（認知症対策総合事業）
分担研究報告書

認知症合併患者の周術期管理に関する検討

研究分担者	井上真一郎	岡山大学病院	精神科神経科	助教
研究協力者	内富 庸介	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	精神神経病態学	教授
	岡部 伸幸	岡山大学病院	精神科神経科	助教
	川田 清宏	岡山大学病院	精神科神経科	助教
	小田 幸治	岡山大学病院	精神科神経科	助教
	矢野 智宣	岡山大学医学部	客員研究員	
	土山 璃沙	岡山大学病院	医療技術部	
	馬場華奈己	岡山大学病院	看護部	
	嶋本 恵	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	精神神経病態学	
	大柳 貴恵	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	精神神経病態学	

研究要旨 近年術式の多様化や麻酔法の進歩などにより手術の安全性が大きく改善しているため、高齢者への手術適応が拡大している。高齢者における精神医学的問題として認知症があるが、認知症患者はせん妄の発症リスクが高いことが従来から指摘されており、また治療に関する意思決定への影響が懸念されるなど、周術期において多くの問題が存在している。

当院では、2008年より周術期管理センターを立ち上げ、周術期の患者支援を目的として組織横断的な活動を行っている。そこで、術前患者における認知症の有無について、専門・認定看護師が適切な評価を行っているかについての実態把握を行う。さらに、周術期支援体制として認知症患者の意思決定支援やせん妄発症予防対策などが可能かどうかを検証する。

A. 研究目的

当院では看護師が術前患者と面談を行う際に認知症の有無について判断しているが、その評価が適切であるかどうかを検討することが前年度(平成25年度)の研究課題であった。その研究では、当院に肺がん・食道がん手術を目的として入院した患者を対象として、術前に看護師が行った認知機能低下に関する主観的評価の正確性について検討した。認知症の有無についてはHDS-Rのカットオフ値を20点としたところ、感度0.56、特異度0.91、陽性的中率0.42、陰性的中率0.94という結果が得られ、看護師は認知症を有する患者を正確に認識出来ていない可能性が示された。

B. 研究方法

それを踏まえて、当院の肝・胆・膵外科において手術を目的として入院した患者を対象として、患者の入院時に認知機能障害の有無

やその程度を、また周術期におけるせん妄の発症や重症度に関して評価を行うこととした。また、認知機能障害とせん妄の発症の関連についても分析・検討を行うこととした。

C. 研究結果、D. 考察、E. 結論

現在プロトコール作成を終え、当院倫理委員会に申請書を提出したところである。通過後の平成27年4月より研究を開始する予定である。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表

1. 井上真一郎： . クロザピンの副作用への

対応 漿膜炎が生じると聞きました

クロザピン 100 の Q&A 治療抵抗性への挑戦,藤井康男編集,星和書店,229-232, 2014

2. 井上真一郎: A 進行再発・転移乳癌の薬物療法 B 随伴症状を有する患者に対する乳癌薬物療法 5.精神症状(うつ・不眠) 各領域専門医にきく 乳癌薬物療法ケースファイル,佐伯俊昭編集,南江堂,2014

学会発表

1. 井上真一郎:在宅医療におけるがん患者・家族の精神心理的ケア,第16回日本在宅医学会大会,浜松,2014.3.1
2. 井上真一郎:終末期におけるせん妄マネジメント,第19回日本緩和医療学会学術大会,神戸,2014.6.20
3. 井上真一郎:多職種チームによる術後せん妄の予防的介入が無効であった症例の検討,第110回日本精神神経学会,横浜,2014.6.27
4. 井上真一郎:せん妄に対するチームアプローチ,第27回サイコオンコロジー学会,船橋,2014.10.4
5. 井上真一郎:プロナンセリンによるせん妄薬物治療の一考察,第55回中国・四国精神神経学会,山口,2014.10.24
6. 井上真一郎:特別講演「精神医学と緩和医学の接点の研究について」,第14回中国地区GHP研究会,広島,2014.11.1
7. 井上真一郎:がん専門病院、大学病院、総合病院における精神腫瘍医 ~それぞれの立場で果たすべき役割の違いとは~,第27回日本総合病院精神医学会,つくば,2014.11.29

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
特記すべきことなし。